



新編日記釋

四



おのろ

紫式部日記叙の事

ついでにふといふ人、我れをいふは、けさ、水と云つは、け
外、うぬた、我れを、うちとけて、ふさ、うぬた、に、き、け、う
の、さ、え、ゆ、る、人、さ、う、なん、こと、その、お、ほ、ひ、も、名、え、ゆ、る、ゆ、り

和泉式部は、作者部類に、越中守大江雅致女、上東門院女房とゆ、
これなり。和泉式部道真の書なるに、うて、和泉式部といふなり。うぬ、
は、文、を、い、り、う、さ、け、い、け、の、け、う、な、る、人、け、う、ぬ、え、ゆ、る、け、
う、ぬ、と、は、信、頼、不、い、き、す、た、た、と、い、ふ、名、なり。い、つ、い、き、す、た、た、ら、う、ぬ、不
い、あ、れ、と、さ、え、ゆ、る、人、さ、う、なん、初、を、に、ほ、ひ、あ、う、と、い、ふ、名、なり。い、ま、れ、
り、ま、れ、た、い、文、の、た、た、り、人、は、人、さ、う、と、ゆ、を、い、ひ、て、い、ふ、人、



うたえいとせうとこと物にほえうたのこまう。梅ことのこらみは梅に
 丁持作らさぬ。ちにはよせた。ことまに。あつにせうたふ。乃
 めふと梅さらみ持へたり

作らうたえいとせうとこと梅にほえうたのこまう。梅ことのこらみは梅に
 丁持作らさぬ。ちにはよせた。ことまに。あつにせうたふ。乃
 めふと梅さらみ持へたり
 作らうたえいとせうとこと梅にほえうたのこまう。梅ことのこらみは梅に
 丁持作らさぬ。ちにはよせた。ことまに。あつにせうたふ。乃
 めふと梅さらみ持へたり
 作らうたえいとせうとこと梅にほえうたのこまう。梅ことのこらみは梅に
 丁持作らさぬ。ちにはよせた。ことまに。あつにせうたふ。乃
 めふと梅さらみ持へたり
 作らうたえいとせうとこと梅にほえうたのこまう。梅ことのこらみは梅に
 丁持作らさぬ。ちにはよせた。ことまに。あつにせうたふ。乃
 めふと梅さらみ持へたり

あろはえし。はに心とふれら梅をながしとさ。名えたりすち小作
 かし。そつうけのあらみやとは。はにほえ作らは
 ち。れたふま。すてその解をやとんふおひて足さし。なむし。新しき。す。
 心工や。心の高貴さ。んふ。れをぬとあつて。うちをけきて。そのよせひひつ
 やうの發想なり。といえれきさ梅では。ッレホトニかく。あるええのあろは。おれ
 うふえした。ことのえを。んふ。き。は。お梅をた。ま。よ。し。ま。これ。今。世。の
 人。お。ま。んの。つた。ぶ。う。と。く。お。れ。ほ。の。う。た。の。た。と。く。お。の。と。ま。う。の。れ。ほ
 つ。か。た。な。と。ら。み。お。た。な。の。た。た。ら。ふ。新。き。き。そ。な。な。と。を。す
 む。え。ら。は。お。の。の。あ。ろ。人。か。う。け。さ。い。か。ら。持。へ。て。さ。し。お。泉。は。う。さ。う
 の。す。ち。れ。づ。ら。み。さ。し。そ。つ。う。け。さ。い。の。ん。ふ。ま。つ。う。け。お。れ。さ。そ。は。て。お。を

たのきはあしすくれたるをいふこのお泉はせうれきしあはれとていひのふ
そつうくたをさふかうのぶらふはゆるはとあり

高階業速朝臣

あまへそのこゝれ水のたせはまなをよのとなりはえまさひくまのとも
いひぢ

水のた侍流江侍従とほまそ中ま度い道長公の取方をいふまさひくまの
とは作者部類に大江匡衡女母赤添衛門と名て予父母の名をと
てこのまなりをいふまのふなりつ子小江竹屋といは姓をつけていふまは
か納まのたふいと仰とあり

ことたやむことぬまほとなく孫とまふとに申あぐくくまらみと
てららつれことふつけてらみちうさふとまえなうたりはまらなれを

まふ一れことまきふしノ世そつうれくちつさふぢれ

やむとまふはいとむくすふなはてまのうへのまらまのほとのまきあ
らばまらみまはらびあらみとのまをうまふし持まおのまつうけのま
小考してこの江竹屋はすくれたらうなりまふとふまにらる

やとせはこしをなれぬえうやれううたををらみひてえといえぬ
らしそみことしとまらりこにたれまひた人ふままといはけくまに
ほえけのまはかり

やいとせまふとふほとてまらくまはふたををいふますれまといふ甲く
ナシトイフトといふまのりこしをなれぬえうまふまこしをたれまやうれ
かせなりけんとまつゆふこしをなれまといふま中末のうたのうた人をれ

う。申あつたのぢやいふなり。さうは三の夕を腰勺といふれをなり。此れ病の
時腰痛といふ。此れなり。えんぬのぬい。年ぬのぬ。なり。えんぬはイフニモ
イエスなり。いふといは。命めさうとぬり。いとけ。さきは。体の人のんて。
にさあけつたやうて。むれう。こにたもひたさぬの。いとけ。うたもは
なり

漢少納言。種。あなり。う屋ふい。うけ。人。さ。は。う。さ。う。た。ち。
ま。な。う。た。ち。う。て。け。ほ。と。も。さ。く。え。れ。は。ま。だ。い。と。ぬ。こ。と。に。ほ。う。
漢少納言。漢原元補の女。あて。う。れ。枕。草。子。う。り。人。な。り。い。う。う。い。た。
り。う。屋。な。り。た。の。い。う。さ。を。い。ふ。人。の。文。ま。な。と。た。ち。い。は。や。と。能。ぬ。ぬ。い。
え。れ。た。り。さ。う。た。ら。た。る。ぬ。え。枕。草。子。を。え。れ。い。け。ふ。ら。く。あ。う。さ。な。り。ま。な。は。

假字に紫へて。男文字をいふた。ぬこととは。とつ。の。え。ぬ。さ。ぬ。せ。い。り

う。く。人。ふ。こ。と。な。り。ん。と。た。ま。ひ。こ。の。あ。り。人。は。う。り。に。え。れ。う。り。し。り。す。
え。う。た。て。け。れ。は。え。ん。ふ。な。り。ぬ。る。人。を。い。と。す。う。り。す。ろ。を。む。う。も。
も。れ。あ。え。れ。ふ。す。こ。を。う。り。た。こ。と。を。え。す。く。さ。ぬ。ほ。と。ふ。た。の。つ。う。さ。る。ゆ。
く。め。た。な。り。さ。ぬ。さ。を。な。り。に。け。れ。し。ま。の。あ。た。ふ。な。り。ぬ。る。人。の。ま。て。い。う。て。り。
は。う。く。ゆ。ん

人のせえのすての人になり。うはては。松の。葉。葉。ふ。ら。そ。は。ら。う。れ。と。さ。よ。
よ。す。ま。い。ら。く。あ。い。く。な。ら。う。か。い。う。と。ん。え。て。こ。れ。れ。は。も。ま。ぬ。り。を。い。
と。え。たり。ま。て。あ。い。く。な。り。し。り。ま。う。た。て。の。も。ゆ。れ。い。さ。や。の。と。い。ふ。う。
て。は。え。ん。と。い。を。い。れ。て。い。う。し。え。ん。ふ。は。え。ん。を。う。た。か。り。能。ぬ。を。ぬ。え。く。

えんなる人と人といふにさうしんをくともいふにさうしんなる
またなるめうしたなとはいひて引たきてすくらにまじりたるを
いふすらは替りて申すに申すはくてもえん小なめうしんたるをす
くらにまじりて申すはくてもいふにさうしんなるを
いふはつくりしうめがうなり。常はそのめうしんたるをまじりて申す
とふに申すといふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬ人と
いとすすらすなるをすすすはめあまのつたすすすすすすすすす
とふに申すはくてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬ
たり。あたといはくてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬ
人のちのそらにわつしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは
くてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは

またえん小なるぬ人のちのそらにわつしんたるをえんたるをたふかり
ぬとにわつしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すはくても
いとすすらすなるをすすすはめあまのつたすすすすすすすすす
とふに申すはくてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬ
たり。あたといはくてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬ
人のちのそらにわつしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは
くてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは
くてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは
くてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは
くてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは
くてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは
くてもいふにさうしんたるをえんたるをたふかりぬと申すに申すは

にほれてひさかたすゝまに引ひりてもてきたる身をたはむいさしよ
り、ゆらい中まき紅の雪をながし、いんかなうたまごして、うのすの木のには
にほふあゝ海原のまはたにひくまを、こころいれうかを、まうにであつんと
ふんぞり

花の心なほうせぬや、そのたぬひあがる秋のねと、うにひてかて
なるめは、いよ、月やいけへ、あまてけん、とるえた、あうさ海や、まは
にやうにゆへへー

花の心、いんすき、うき、ゆへーと、あひて、か、いんかなうたまごして、あんと、ま
んぞり、なほて、このつに、佛のまふぶく、あひりたれも、花とあう、いれ
は、この年のともなうつひて、花のなとま、まのい、ゆへ、なう、古きふ、つは

とは、あ、え、このと、秋のら、お、れ、の、ま、の、う、け、ま、ら、こ、人、を、就
中断、賜、是、秋、天、な、と、い、ひ、て、秋、を、花、を、ひ、ま、る、の、あ、か、う、さ、て、ま、の
あ、な、ま、ひ、の、す、け、う、い、い、お、ま、の、た、お、か、あ、て、な、む、れ、を、な、い、と、ま、こ、れ、い、あ、う
に、あ、れ、待、小、す、れ、を、年、老、を、月、を、か、む、れ、い、苦、さ、う、く、さ、う、か、う、一、ほ、と、に、え
一、あ、う、さ、ま、月、の、心、に、あ、り、て、う、ん、と、い、う、の、あ、ま、を、と、う、ま、い、い、へ、う、な、り
一、い、待、が、あ、ま、い、す、考、へ、さ、し、と、ま、あ、う、ほ、さ、う、か、う、ん、と、ま、い、ま、ま、な、ま、な
ゆ、う、さ、ほ、と、い、い、待、が、り、う、へ、に、ま、な、あ、う、ほ、に、て、我、身、の、さ、た、す、さ、れ、と、う、た
こ、を、あ、ひ、て、い、い、あ、り、ま、ら、ほ、ほ、え、ま、あ、う、ま、あ、い、う、ら、ひ、ま、い、ま、あ、い、よ
世、の、人、れ、い、む、と、い、ひ、ゆ、く、と、か、ま、も、い、あ、く、ほ、ま、なり、ゆ、う、な、ん、と、ま、う、い、れ
て、す、こ、一、れ、く、い、ひ、ま、い、り、て、ま、ま、あ、う、ふ、ん、の、う、ち、に、え、ほ、き、せ、は、ね、あ、い、ひ、つ

けられ侍

世の人をいむといひ侍る。竹取物語のうや。昨月のれき。ちうそ。たをきてつ
孫うも。おひひな。さ。あ。人の。月の。ほ。さ。い。む。を。さ。い。け。れ。ま。と
ま。す。は。ひ。ま。に。も。月。を。さ。て。さ。く。か。れ。結。ん。後。撰。集。の。月。を。あ。え。れ。い
ふ。は。い。む。な。う。と。い。ふ。人。の。あ。け。れ。は。さ。も。人。あ。ら。は。に。但。少。強。ひ。う。孫。の。ま。ひ。
さ。ゆ。ふ。ね。さ。か。つ。月。を。あ。え。れ。い。ま。さ。う。孫。つ。な。と。さ。て。昔。は。い。ま。か。う。え
し。の。あ。う。い。な。う。と。さ。と。は。を。さ。う。さ。い。さ。い。し。て。さ。を。さ。と。い。う。ま。た
り。侍。う。ん。と。さ。人。の。い。む。と。さ。い。は。か。さ。の。た。ふ。ま。た。ん。と。い。ひ。を。さ。
れ。て。さ。の。う。た。ら。う。が。い。要。さ。ゆ。い。う。工。妙。な。う。ま。れ。と。う。て。は。よ。ま。に。な
と。さ。い。ま。ま。い。な。よ。め。ま。な。い。ま。た。う。と。い。う。後。撰。集。の。ま。あ。ら。は。に。さ。い。

ふま。い。月。を。い。お。ひ。の。ゆ。を。う。の。し。と。さ。な。を。要。さ。ゆ。い。う。て。い。ま。さ。う
に。さ。い。ま。ま。い。ま。シ。カ。ミ。ナ。ガ。う。ん。の。う。ち。い。お。ひ。さ。の。つ。き。せ。い。ま。と。な。う。
ま。た。こ。も。世。の。人。の。い。む。な。う。の。と。い。う。な。う。に。さ。う。て。要。さ。ゆ。い。う
て。ゆ。め。人。の。い。む。ん。と。い。ひ。こ。の。ゆ。け。て。さ。れ。ほ。と。い。ま。を。な。ほ。さ。ゆ。な。う。
月。を。さ。て。い。む。と。い。ふ。は。白。氏。文。集。贈。内。詩。に。莫。對。月。明。思。往。事。損
君。顔。色。減。君。年。と。い。ふ。な。と。う。や。さ。る。な。う。い。は。な。う。つ。ん。ま。は。女
お。う。の。ま。の。い。ま。い。ま。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
風。の。す。し。た。た。く。れ。さ。て。さ。う。ぬ。ひ。う。こ。を。う。た。な。う。て。え。な。け。さ
く。さ。う。と。さ。う。い。う。人。や。あ。ら。ん。と。申。し。く。な。と。れ。ほ。え。侍。う。我。を。こ
に。さ。あ。ま。れ。に。さ。侍。う。け。ま。

そらうぬつたなれに卑かしてゑるなり。なけさるゝ。いま今某にけ
へさうけつぬかおれたる。おふ女の琴ひきけり。おさうて。ちみていれけり。さ
ーい。のむかまた。おひ人のすむ。やとゝる。かふ。なけさるゝ。琴の秘
えは。とゝる。なほ。裁さるゝ。く。の。さ。身。な。い。け。た。な。は。琴。の。秘。お。な
け。の。秘。の。こ。と。ほ。と。と。又。さ。う。に。さ。う。ー。ん。や。あ。ん。と。い。申。し。く。ま。こ
こ。ま。い。て。く。し。き。こ。た。な。で。ま。い。れ。さ。あ。ま。さ。う。ー。ん。い。ん。う。い。て。く。し。き。な。り。さ。れ
と。ま。と。う。い。ひ。し。き。な。れ。は。さ。う。さ。う。ー。ん。も。い。て。く。し。き。品。さ。う。ま。せ。れ
と。ま。い。は。お。こ。も。あ。ま。さ。う。さ。う。て。あ。ま。れ。に。も。け。り。け。さ。う。さ。う。て。は。ま。い。か
ナ。は。て。卑。か。ー。て。あ。ま。さ。う。人。の。許。小。ら。な。え。す。物。な。ら。う。て。う。く。あ。ま。に。卑
か。ー。て。さ。う

さうはあやうく。さうさけな。はうー。に。さ。う。の。こ。と。ま。い。さ。う。い。な
う。い。ん。お。い。ま。さ。あ。ま。さ。う。日。こ。さ。う。た。さ。な。と。ま。い。ひ。け。ぬ。あ。ま。さ。う
は。さ。う。て。さ。な。さ。た。ま。い。申。し。と。ま。い。ら。の。ま。さ。あ。ま。さ。う。い。ん。い。れ。い。れ。い
し。さ。う。い。た。り。ま。い。お。な。て。け。り

さうはあやうく。さうさけな。はうー。に。さ。う。の。こ。と。ま。い。さ。う。い。な
う。い。ん。お。い。ま。さ。あ。ま。さ。う。日。こ。さ。う。た。さ。な。と。ま。い。ひ。け。ぬ。あ。ま。さ。う
は。さ。う。て。さ。な。さ。た。ま。い。申。し。と。ま。い。ら。の。ま。さ。あ。ま。さ。う。い。ん。い。れ。い。れ。い
し。さ。う。い。た。り。ま。い。お。な。て。け。り

源氏物語はあづまよみなり。あづまよみ柱をたて。あづまよみの人
婦もあづまなり。あづまよみてきしむ。下のなよみは婦もあづま
く文なり。と能本をねむ。弾ぬらなを。あづまよみて。なほうらに
り。昨き。あづまよみ。あづまよみて。なほうらに。あづまよみて。なほ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
たり。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ

れは。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ

あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ

あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ

あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ

あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ

あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ
あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよみて。あづまよ

世はくふの事とまをいせめてまはひくつれくならんたるをい
 つまは、たいろなをいり、女房は、式部のみつうふ女房なり、たまは、
 女房とのひひーらふ酒なり、たまとい、式部をさうていふくたまは、
 女房て、よま書らむをいり、なまふい、なといふ、彼のほを省ける、
 てよま書らむ女は、さめてなにかにひくなく、さやうらむをたふ、佛
 経をらむに、女はあ、佛ーまことて、まーなり、中て、経をぬふ
 ま書をやといふ、さやう、さやうこちは、さやうこと、ほは、さやうことは、
 がく手なり、たまは、まは、まは、まは、
 世はくふの人のりす、まのちなうらめ、なうらま、まは、ぬたぬーなり、
 といふ、ほは、くつれと、たまは、い、ほをた、まは、なり

世はくふの事とまをいせめてまはひくつれくならんたるをい
 つまは、たいろなをいり、女房は、式部のみつうふ女房なり、たまは、
 女房とのひひーらふ酒なり、たまとい、式部をさうていふくたまは、
 女房て、よま書らむをいり、なまふい、なといふ、彼のほを省ける、
 てよま書らむ女は、さめてなにかにひくなく、さやうらむをたふ、佛
 経をらむに、女はあ、佛ーまことて、まーなり、中て、経をぬふ
 ま書をやといふ、さやう、さやうこちは、さやうこと、ほは、さやうことは、
 がく手なり、たまは、まは、まは、まは、
 世はくふの人のりす、まのちなうらめ、なうらま、まは、ぬたぬーなり、
 といふ、ほは、くつれと、たまは、い、ほをた、まは、なり

常本末にさうさくはとけぬたつてはうまのなまけをおつう。
まじけつしんまをばとくになつたまからう申あまらとよくやうて
うまのなまけをおつう

まはまめうくあたくけきと中世の人うくせなくうたう
おためええにくらふおせだふなうぬれはにうはけらう
おま一様のおまおせはう。中世をうらまなう。せなくい。まらうたの癖
のせれをい。なまのなまはうたうにわう人のためうたう。うらう。
うらうおせだ。が。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
おはとく。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。

けて。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
ば。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。

こま。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
常本末に。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
も。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
ま。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
これ。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。
お。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。うらう。

杖をもたげのゆくをたふせせを結えは杖をゆれにがけのあをれをうけん
人たふなとあると金せえてきへしなまけをさにもひこくろはにんまへあ
をひいてあなはあふいたせ。尋本中のうまのなまけをたのつうしをつけ
つべきれをやとゆと申く。前にすれならすき。おふふれてんまあてすふ
しうひかり

人すまにんことしひではは。まろきことをあやまちたけんもひひ
らえふそつうかろ。たけえたり

にんとはあふそなをさひんをせんうに。おんまをひきひてんあやしとゆ
に申。まろきとゆとはにんまのまのまろきつたのまゆ。あやまちたけんとは
ミソコナヒたけんおもなり。あのは人すまにんまにんましひたそにんまの

中のまろきつたのまをたひ。ミソコナヒたけんまをせらひひるるんに。まろ
うたそなりといふなり。にんまをひきひてんまをさゆなり。杖本は。
ワシスカヌ人^{ワロキ}ハ。未熟ニイヒソコナヒ。ミソコナヒデモ。シヌ。トノアル時ハ。遠リヨモナク。
杖夫^{ワロキ}フキニナルトナリ。といふなり

ひとらうらん人は杖をにくむと。杖をた人をおむひうし
むへけきと。ひとさーま。えあは

この杖は。まにんらうらん人の杖なり。人をの人は。杖をにくむ人なり。こまの
人を。杖もひうし。まろき。そのためらうらんやにす人けきと。まろきとは。
さやに。えあは。ぬものなり。まろき。次ふ。そら。まろき。なり。うし。まろきは。
トリモツなり

こはこれまたまじりにけしきたりたる事おはあしつゝまじりて
しうまはなによくなたうなる事おはあしつゝまじりて
けちまじり人の心のまじりたるは又申さしつゝまじりたるは
なる事おはあしつゝまじりたるは又申さしつゝまじりたるは
とまじりたるは又申さしつゝまじりたるは又申さしつゝまじりたるは
はまじりたるは又申さしつゝまじりたるは又申さしつゝまじりたるは
悲ふたるは又申さしつゝまじりたるは又申さしつゝまじりたるは
とまじりたるは又申さしつゝまじりたるは又申さしつゝまじりたるは
人の情事と申すは又申さしつゝまじりたるは又申さしつゝまじりたるは
まじりたるは又申さしつゝまじりたるは又申さしつゝまじりたるは

らゝなるたを後小なりとするなり。 此小教中に
さゝるものなりといふ人なり。あやうすろふらうにたをいけるを
えーと作ぬんじりあうこと。たはうさるえはうー
あやうさるものなりとつゞきこふ事なり。らうにたをいけるを
神と神とをあやうさるものなり。これとさる事おはあしつゝまじりたるは
この内情の事なり。たはうさるものなりとあり
うちれ^帝への源氏の事なり。人小をせしむる事なり。この
人は日本能をこせしむる事なり。たはうさるものなりとあり
こふ事なり。あやうさるものなりとあり。たはうさるものなりとあり
して日本能の事は神と神とをいける事なり。たはうさるものなりとあり

この人々源氏物語はくはる式部をこして。帝代終くそ山相なり。日中絶え師
の日中絶え局考に。日本書紀をそめ。史のよき。陸(一)なり。いそ小たり。らみ
陸(一)け小つれの中。ま。れう。あれと。こはさ。え。あ。て。ら。み。な。へ。け。れ。の。程。う。な。る。下。に。
へ。て。陸(一)といふ。洞に。さ。る。何。ん。と。さ。れ。え。なり。さ。え。い。の。ま。ま。を。な。ら。う。小。い。へ。は。て。
字向のうたのさえなり。ふと。たし。えう。に。え。の。な。ま。の。内。竹。の。お。し。え。う。に。なり。い。
こ。う。な。ん。ま。え。あ。とは。内。竹。の。屋。上。人。な。ふ。い。ひ。ち。く。は。と。え。なり。侍。中。平。と。に。
さ。え。う。あ。ると。内。竹。と。い。え。今。敷。中。に。か。こ。を。記。し。ら。う。た。れ。と。さ。い。い。ま。え。う。と。あり。
を。誤。り。に。ま。や。う。は。幸。は。才。ゆ。へ。と。う。陸。ひ。た。を。内。竹。え。を。ね。し。え。う。に。さ。
え。う。と。ま。を。な。て。さ。て。さ。う。に。屋。上。人。な。ふ。い。ひ。ち。く。は。に。ま。し。た。ね。し。え。う。に。と。あ。
る。洞。も。と。う。く。の。へ。ま。え。なり。ま。の。洞。を。は。う。え。い。は。さ。え。あ。と。ほ。め。い。さ。い。ほ。

はて下にて。女の字向な。て。さ。を。さ。う。ま。い。い。さ。ま。か。し。ま。幸。れ。四。洞。に。さ。う。て。日
中。絶。の。局。と。い。は。く。と。す。を。あ。つ。け。た。な。り。こ。の。幸。の。終。を。う。た。ら。の。ま。い。
き。ま。は。日。中。絶。の。局。考。の。ま。を。な。り。ま。の。う。た。け。し。あ。ふ。は。省。け。り。を。う。く。さ。あ。え
可。笑。う。た。なり。

い。の。ふ。隙。さ。の。女。の。ま。い。い。は。ふ。い。つ。み。結。の。ま。の。を。さ。う。本。に。さ。え。さ。い。こ。う。い。
て。ゆ。へ。ん。

ふ。隙。さ。とは。裁。里。亭。女。を。な。つ。く。人。か。なり。つ。み。結。の。ま。ま。向。な。て。する。さ。ゆ。を。なり。さ。ま。本
の内。に。なり。を。い。ひ。ま。え。さ。う。い。ひ。ゆ。ゆ。へ。ん。は。い。さ。ま。ま。お。は。て。さ。え。さ。う。い。ひ。て。さ。え。の
ま。ま。ゆ。ゆ。ゆ。へ。ん。ら。と。い。は。る。に。さ。ふ。と。お。え。う。ら。内。竹。の。ま。い。ひ。ち。く。は。い。ひ。ち。く。は。い。ま。ま。名
つ。け。を。と。や。い。ま。を。下。に。い。ひ。と。さ。う。く。つ。ま。ら。に。ま。い。ひ。ま。え。を。う。ら。や。に。を。ゆ。め。教。

息の産を、多岐に与りて、またその産るるの産るるをへらる。たとも

この式部とひよ人のわらへに、史記とひよあまらみ傳り—とたて
なすいづ。この人はたてはらみと、またその産るるを、あや—にまて、
とく傳り—は、あまにんぬれた。たやは、くらやう。その^男は、はてした
ぬこ、たて、あまをいなり、けれと、たて、つたふな、けれ傳り—

式部は、式部の兄の惟規と、傳りに出り、史記は、この司馬遷うは、くれ書
なり、この人は、惟規の子なり、あや—に、まて、まは、このうの、まなり、
まに、ぬれた、親、ひよ、為、時、たて、系、系、の、本、小、儒、者、と、ひ、り、ま、この人、越、後、子
ら、淡、路、に、な、り、た、て、ひ、り、た、た、て、越、後、子、に、な、り、ひ、り、後、世、徒、う、
う、た、の、ま、に、ま、り、う、ま、た、た、て、ひ、り、ま、の、ま、に、も、越、後、子、の、け、ら、め、ま、り、ひ、り、

ま、た、た、た、た、ま、は、人、く、ま、り、ま、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
へ、た、
う、う、ま、は、ま、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
く、家、中、に、ま、り。

たて、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
め、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、

た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、

人の心とてさうとあるのちよき人なきは、フチヤウホウなる事なる。雅
語訳解に、手稚うといふなり

らふ—あまをといひけんそのあまをともたなるをけり—にれりく
原こころけり—うはひふんそはまにむんとあつ—と
にひひさうふのうみふたたことをたふらぬうほを—けり—せ

めふと—ういへ、まふたてけをま—とあひらうたはらうをなう。うほと
は、集の内信のまえうぬら—ふひたるよぬり。人もはせげの人をなう。にく
むんは、式教をなう。ういへ、まふたてけをま—とあひらうたはらうをなう。うほと
なう—うら—なうは、たふひひさうふにとあふ—けり—紙と—んはつたを
—。能本ねき、下にゑあつて、宗詩などのあをい—う。といふなり。らぬぬえ。

宗家七論に、えらぬぬとつらうた—

まのたすへにて、文集のあまらぬせけひなと—て、さうさぬのことさう
—めさせぬけかたほひた—うは、ひ—のひて、人のさう—をぬ
とけひむくに、むと—のまこらう。集府といふふみ、にくまんを
え、あとけなく、うら—へたて、さあえさせて、けり—けり

文集は、白氏文集にて、このひたくを、まふたてけをなう。らぬせけひは、式教に
ら師、めけふなう。さうさぬのことは、詩文をよとなく。あ—きは、道長公の
さうににほせさう。たほひ、ろなう。い、のけりなう。むと—のま、寛弘四年
のまをう。集府は、文集の中なる。詩の一体なる。まとけなくは、トリシテ、ナキ
ほて、人か—て、むとけひむく、ふと—へ、さぬなう。 集府、数平、平に

詰り

とよまき 年齢も道せ克にお應ふなり申くとあり。なりきも偏るに
りやていふなり。たれほきて。老てほむく。死せぬ。えためつ。とを。こつ
うにも解つた。教中にもめつ。に。平は。めつ。ころとあれ。た。こ
え。た。し。その。つ。な。と。あ。へ。し。所。元。は。え。あ。つ。に。ろ。と。め。つ。が。し。と。た。れ
て。解。ら。む。は。た。の。と。は。て。め。つ。し。け。な。け。き。と。い。な。う。こ。れ。ら。う。た。れ。ほ。ま。き。て。は。
め。つ。に。ろ。解。ら。む。た。佛。た。修。り。の。心。と。申。さ。ま。う。ん。と。い。ふ。言。じ。で。つ。た
り。と。い。ふ。え。ん。ふ。ふ。た。い。佛。た。に。お。ひ。め。は。ん。あ。さ。う。ぬ。た。な。に。ら。う。て。い
り。人。ま。ま。今。の。心。と。申。し。く。早。下。り。て。い。へ。り。この。言。は。我。う。つ。た。か。た。だ。に
て。佛。た。に。お。う。ん。と。い。ふ。は。ん。ふ。ふ。た。人。の。す。ま。い。を。ま。し。ま。う。な。れ。と。い。ふ。言。じ。

たれほむふた人はまたあつは。この言ひは。一。たのら。あ。つ
こと。これ。ほ。く。修。ま。は。ら。う。ふ。は。ま。て。る。あ。う。修。

たれとは。道せの。う。た。を。う。て。い。ふ。は。い。罪。業。の。う。た。い。修。し。い。道。せ。え。ん。と
あ。ふ。ん。に。も。え。え。い。と。なり。さ。の。ら。も。前。せ。の。因。縁。に。て。現。世。に。報。應。あ。る。を
ひ。て。い。え。我。う。道。せ。え。ん。と。い。ふ。な。申。な。さ。ま。う。め。つ。す。や。う。に。も。え。せ。ぬ
は。前。世。に。善。い。功。徳。な。る。を。現。世。に。い。ふ。う。た。の。う。た。い。を。い。へ。り。さて。こ。れ
れ。を。な。ら。ん。ふ。ぬ。ひ。う。た。さ。よ。の。あ。ま。た。あ。る。を。た。ほ。く。と。い。へ。り

いふふ。え。う。た。け。修。め。こと。を。ら。た。め。し。さ。せ。に。あ。る。こと。が
け。う。へ。の。ま。い。む。て。も。の。う。に。さ。さ。え。さ。せ。た。う。あ。け。う。修。ら。む。と。い。へ。り
い。ふ。ふ。え。ん。ふ。に。消。息。文。を。う。た。の。に。え。え。う。た。け。ぬ。と。を。す。の。に。う。た。て。ら。ぬ

申れたる事なむあきらみし。また又此の御書にけり。いれみふまに。よふにうみと
もめでたうこそせ給ひて。と仰り。又書中まのうみ。御書申す。よふにうみ。いれみ
一の書に。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。
らに。又書に。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。
りを。申れたる事なむあきらみし。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。
この事なり。下の事なきのこなたまで。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。
又せまうとするらう。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。

けし。うみ。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。
ま。く。お。ね。し。よ。ふ。に。う。み。と。仰。り。よ。ふ。に。う。み。と。仰。り。よ。ふ。に。う。み。と。仰。り。よ。ふ。に。う。み。と。仰。り。
よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。

にて。ま。ち。つ。つ。は。い。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。

けし。うみ。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。よふにうみ。と仰り。
に。い。た。る。人。の。い。ふ。こと。は。よ。う。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。
申す。こと。は。よ。う。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。
ん。か。き。よ。う。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。
て。人。の。い。ふ。こと。は。よ。う。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。
は。ま。く。お。ね。し。よ。ふ。に。う。み。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。
ら。う。て。よ。う。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。
よ。の。あ。は。ら。う。に。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。
り。又。人。は。拜。見。ツ。カ。テ。ワ。ラ。ン。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。よ。の。し。よ。う。や。く。な。し。と。仰。り。

〇〇〇〇
 せほせたるは、若君をいひつれとあてたるを、大藤合のま師とていひつれ
 たり。せほせば、せほのべたるまかり、師よりあえとは、ゆるやうなる若君を、舟にの
 りせほせたるをいひつれ、うたうたよま、さうせうくあゆむにとつらんを
 うは—あやうたるものかえ—、かのまは、え、文せたるは、まをほせたるを、の
 せは、がのまなり、といへれ、この大藤合、幸老たる、あふあゆ、あふくは、あふ、
 こ相應ニよ、よ、えなり、若君連の中に、幸老なる人なり、あふ、あふ、く、ま、り
 てなり、さほふま、若君連のうた、あゆに、幸老たる、あふ、まほふ、まほふ、ま
 かり、せう、う、可笑うたり

舟にうちあや、れいせは、さつらん、あひたるを、さうつけ、さつらん、あ、
 大

ま、徐福文成、難、疑、れ、ほ—、と、うち、に、に、さ、あ、ひ、た、る、を、ま、ほ、ま、あ、ひ、
 り、め、う、く、又、申

舟にうちあや、さ、人の、あ、ゆ、つ、を、あ、て、た、ま、あ、れ、あ、る、徐、福、の、ま、あ、ひ、ま、
 て、白、氏、文、集、か、り、童、男、廿、女、舟、中、老、と、あ、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 とも、の、蓬、萊、に、い、た、ら、ぬ、ほ、ま、あ、あ、の、中、に、て、幸、老、た、る、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 〇、あ、の、内、幸、老、た、る、大、藤、合、を、徐、福、と、い、う、こ、の、は、徐、福、か、た、え、う、り、あ、ひ、ま、ま、ま、ま、
 若、君、連、を、ま、ま、あ、ひ、た、ら、ぬ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 へ、た、ま、
 た、ま、あ、ひ、た、ら、ぬ、り、あ、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 れ、あ、ひ、た、ら、ぬ、あ、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 を、誦、一、巻、を、誦、誦、い、あ、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 〇、紫、式、ア、秋、卷、四

孝、その子に及ぶ。史記に及んで、徐福、徐市とも及んで、秦始皇帝のとれた文
 成、漢武帝のとれたのどのかう、妻一に及ぶ。史記と、白氏文集とを及べて
 一
 一

池乃う、元美とうたひて、ふえなとふさあをせな。何の月うたの風のけ
 をひたえ、心こそあつ、もうなんことも、あうら、あうらうらうらうけり

池乃う、元美、おれ白かろへ、その言は、どうふあひたう、うかえけまよ、うたた
 え、ほ、それとうら、とは、たよ、は、川乃う、元美、なと、いふや、よ、あふつて、い、池と、と、う
 うて、あ、言、な、と、源氏物語にも、及、たり、ま、い、れ、ま、し、清、堂、に、て、の、と、あ、う

源氏物語、い、ま、へ、に、ゆ、せ、と、の、い、らん、一、と、ま、い、の、す、づ、ろ、こ、と、と、ま、い、と、ま、い、と、ま
 だ、は、あ、て、に、う、め、れ、え、た、ふ、さ、う、れ、た、う、ま、に、う、せ、は、い、く

すろとは、は、ゆ、ゆ、ゆ、と、ま、い、り、つ、モ、ナ、イ、コ、ト、ゆ、り、つ、源氏物語、う、ち、に、す、れ、
 う、ゆ、一、と、ま、い、れ、あ、ま、り、と、ま、い、れ、は、う、ら、た、つ、式、教、と、ま、い、れ、な、と、た、ま、い、れ、
 此、は、ゆ、か、ろ、へ、次、品、奇、奇、さ、う、ま、い、と、ま、い、れ、の、た、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、
 十、に、と、れ、と、ま、い、一、た、て、れ、と、ま、い、れ、人、乃、ま、い、れ、て、い、ら、は、あ、一、と、ま、い、れ、
 た、ゆ、え、せ、た、ま、い、れ、

人、ふ、ゆ、た、ま、い、れ、ぬ、ま、い、れ、を、た、ま、い、れ、す、れ、た、ま、い、れ、の、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、
 一、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、
 一、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、

すれとは、好色モノにて、式教をまゝ、の、様、上、な、り、と、ま、い、れ、の、ま、い、れ、好色モノと式教の、
 名、あ、た、ら、ま、い、れ、は、それ、ま、い、れ、の、ま、い、れ、と、ま、い、れ、の、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、
 一、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、
 一、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、
 一、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、
 一、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、と、ま、い、れ、

く人のあはたしとてえやうしと申すはひし事ゆめりとはうは時えう
はてふふくのもをいふさのまはる我局をたさたりとてなかにぬてあ
やくあひなるはふふこの局をえてまはあちてたや一師たりとねあ
はつてけふはよの水難をうてとはうたう水難をうに局をあけてま
てきまう師とはふふくうう師はふへはて送長そのなくまだま
まひつと始を結つたにぬたうはあの結へまをほつ師さうにとさ
りたくとひひてまをまぬりまはとはた奇のうのみふほとくけにこ
ぬさあふひわしたるなりまよのらまのあくとをたうてし結みぬのい
まげふ初句のえすきに若くしてたえぬりとはうのとい係にえちうひて上
をうけたるえぬりまをほつ師とひつてはえあまうとまぬりまけか
る

にも心さしとまをうてたうはたきろこにとてひし師さやねん人さたむ
へしとてまをえなすとは梅の枝かきとあはにひては正月の上のへんこ
こはせりうたうたう水難にまをてらみほへなるは四月はううのえぬり
まを寛弘六年の同月とはあふてせまう
まを正月三日満をまたち此にたさまちひに日にすうのほ
て清ふいよに流上らうとあから頼通卿のうまいたまをまう清ひて
度もちひはとうひてう人にまを清ふふたほのひうし此とふむの
いてうへ此にたまをまを清ふなりたりのほを清ふなりまを
まをかり

まを寛弘七年正月此にぬりまをならをてし水難を清へるまをまねとま

幸せしむるに著文後朱とあり。日本記畧寛弘六年十一月廿五日丙子辰
 時中宮於左大臣上東門第御産第三皇子。葉室御説百孫抄と云くた
 一なとこ此小たか
 にうてあへし。以裁錐のと。あふくそりうひり。さてあそ。去年十月六日。多院
 やけて。日平院裏百孫抄
 なと。あたか同き十九日。幸この道長公の。枇杷のい家にうつせに
 ち帰してるとあり。初宮にうちとやけおし。うは。幸はひまたひりにてし
 中庭とひつ。あこの四方のともり。枇杷庭の拾枝抄に左大臣仲平公宅昭宣公
 家ま。とえきたるを。今道長公の傳りし。流いたるあり。日本記畧百孫抄と云
 左大臣枇杷第とあり
 大文はのげくせ給えは。ことしははいたち。いま。いひ。幸お。表ま。いの
 と。清文あひなと。ことふいとせうし。花人はたふみ。ひり。こ。は。う
 流つ。う。つ。けたる。う。な。ち。な。と。こ。ろ。い。ち。う。い。ひ。と。こ。と。ふ。を。え。流。へ。

東三余院
 まいのも。清文あひ。情中に。是たり。花人は。女。花。人。す。い。と。ふ。を。流。へ。は。
 花女房に。え。ま。う。て。い。は。る。な。い。な。人。は。い。と。ふ。す。く。は。て。え。申。と。あり
 た。と。い。は。う。の。数。中。に。う。
 わ。を。な。し。や。く。す。り。花。女。官。に。し。あ。や。乃。は。さ。せ。う。う。一。だ。ら。さ。ひ。う。う。
 かなり。た。う。や。く。く。を。い。ふ。ま。い。の。こ。と。と。を。な。り
 く。す。り。花。女。官。の。え。う。う。言。は。て。序。葉。層嶺白散度
 嶂散とありを。供。す。儀。式。の。ゆ。え。を。儀。小。あ
 い。う。い。花。官。と。せ。い。ふ。を。儀。は。西。宮。訖。下。を。す。り。花。書。と。に。さ。う。う。及。な。り。
 ち。や。花。と。せ。い。大。学。寮。の。博。士。と。う。こ。れ。と。の。博。士。の。序。葉。の。儀。小。あ。い。う。う。ら。し。
 と。花。女。官。と。な。す。の。い。う。い。う。く。と。う。に。こ。は。さ。え。あ。ふ。や。の。え。を。な。ら。さ。う。
 う。ふ。く。さ。か。な。り。と。或。は。さ。て。の。さ。を。さ。う。な。り。さ。と。う。り。一。せ。う。く。う。つ。一

つ力経へり。源後賢卿中納言経房御之末孫。石太宰御お中ねなけり。此志に、
上人の元の上はほき経へり。

傳大納言は、大納言あり、東宮傳へられたるを以て、頼朝の傍に侍る。頼朝は、
成行成を頼通と、石太宰の傍に侍る。むかし、頼朝に、
こころなしたるを語り、経ひて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、
みり、あえ、を、経へり。

このまは、後一条帝の御り、いなき、道長公のなり。次のことを、
まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、
いなき、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、
てこの祝詞は、いなき、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、

うつり、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、

^帝うへふと、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、
て、あつと、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、
なと、い、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、

いなき、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、
まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、
まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、
まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、

うへふと、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、まゐりて、

のりゑをせ給へり。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 へはあせしにあり。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 むらうせ給へり。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 此日なり。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに

うふは上のたむをうらむ。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 日のわりいゝをえせ給ひて。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 んのうらむをうらむ。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 り。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 に。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 に。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに

といふまに。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 えて。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 に。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 せめて。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 ことと。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに

いらなうらぬをいふ。これに。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 らほほ。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 うく。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに
 き。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに

いらなうらぬは。さうしてさうおまひて。うくらぬなるふなをわけて。これに

道長公の初なり。ひところは。後系平を十段。左大臣。去年。後朱雀帝。せ
れせ治ひて。二系平をいふ。またちは。あまの二系のまたらぬり。ひさあけ
つは。い合表をいふ。

卿へに小松乃なうせは。よりちねー。読よあたらー。うんことうも。
どうもふー。此人乃あり。うぬめたく。ねほえよを讀よ

卿へに小松のき。拾遺集に。歌あつに。きこふ。子の日。卿へに小松のなうせは。
ちうせためーになあをひうぬし。と。うぬをに。読よあたら。この若きたら。小松
にさす。人さう。讀よぬり。あたら。うんさ。あたら。うんさ。あたら。うんさ。あたら。
り。と。うぬの。きこふに。あひた。を引ぬ。た。う。さう。たう。と。いぬ。ぬり。むらあ。
此人のあつ。讀よぬ。あたら。に。あつ。て。ん。う。あひ。わ。人。乃。を。引。ぬ。て。た。う。あ。あ。

に。人の。讀。よ。め。た。う。と。ぬ。た。ほ。く。さ。讀。よ。は。む。の。み。辨。ふ。は。て。ね。ほ。は。あ。い。ん。
と。い。ふ。と。あ。て。を。甲。に。人。か。あ。え。を。意。を。わ。り。さ。と。思。な。す。く。ぬ。も。道。長。公。の。化。
の人。に。あ。て。た。く。も。れ。き。を。讀。よ。を。い。ふ

又の日。夕つたぬ。い。う。と。う。ほ。え。た。う。を。読。よ。う。う。け。た。新。れ。ひ。い。
ぬ。さ。に。き。き。さ。た。度。の。う。人の。ほ。と。を。ほ。の。ふ。え。て。中。つ。さ。め。の。と。ら
へ。れ。ぬ。さ。を。さ。ひ。を。め。て。た。こ。ゆ。こ。乃。命。輝。を。も。ぬ。ん。え。て。う。と。く。ー。く
は。傳。々。人。な。き

又の日。正月。雪。ぬ。り。う。う。う。け。た。さ。き。い。き。ゆ。え。を。ひ。た。う。た。ぬ。の。ん。れ。批。把
殿。の。う。ぬ。あ。ひ。や。う。ー。ぬ。さ。を。さ。ひ。す。て。す。さ。ひ。とは。ぬ。く。ん。ふ。れ。す。ー。て。う。
さ。め。小。拍。す。う。と。を。ぬ。り。ぬ。え。卿。へ。乃。わ。ね。を。に。け。ぬ。ひ。ぬ。さ。を。さ。ひ。を。う。この

命婦をばこそとありてこそや。脱ぎなすへ

あうさし。海舟はさう。うまれば。いんは。正月十五。乙丑。於枇杷殿。皇居。有第三
か。お。あ。け。を。さ。う。た。め。か。う。た。る。に。か。り。は。り

二。三。の。後。朱。雀。華。れ。う。帯。は。い。た。め。に。三。三。を。れ。と。中。ま。の。四。方。に。つ。ま。て。二。三。と
は。か。ま。れ。り。い。ふ。十。日。日本。記。畧。にも。正月。十五。乙。丑。於。枇。杷。殿。皇。居。有。第。三
皇子。御。五。十。日。車。と。な。り。たり

ま。い。の。ね。な。し。あ。ふ。わ。たり。ふ。たり。れ。い。け。孫。を。ひ。と。ふ。あ。を。せ。て。た
み。ふ。さ。と。い。は。ほ。と。も。す。む。し。と。た。ひ。に。か。う。て。は。あ。す。を。う。を。へ。た
て。は。て。り

こ。と。の。ほ。と。も。す。む。は。二。人。の。う。ち。一。人。里。に。ひ。て。た。ゆ。と。ふ。の。う。た。二。人。の。け。ひ

と。い。ふ。あ。を。せ。た。ゆ。ち。て。め。を。い。ふ

度。え。ま。た。を。清。く。こ。た。に。あ。い。ぬ。人。を。こ。た。は。は。な。と。ま。う。に。く。さ
れ。と。た。ま。を。さ。い。は。う。と。く。一。に。こ。た。け。ま。は。ん。や。に。く。し。な。ん

ら。だ。に。さ。い。道。長。公。の。初。ま。こ。う。た。は。武。部。と。か。少。将。と。た。う。ひ。あ。れ。う。あ。い。ぬ。人
と。ま。と。は。あ。い。ぬ。人。れ。う。へ。ま。と。も。う。た。う。ふ。は。海。舟。と。い。ふ。よ。う。に。て。こ。の。二。人。の。い。と
む。い。し。け。い。お。お。い。た。う。さ。海。舟。を。さ。い。あ。の。清。く。あ。り。う。た。う。は。ま。は。あ。い。ぬ。人。と
こ。の。二。人。に。さ。う。し。ら。う。と。ら。と。い。ふ。よ。う。に。さ。い。え。ま。に。く。と。い。ひ。う。た。れ。と。い。ふ。侍。奉
れ。女。房。と。い。ふ。れ。と。い。ふ。中。ま。の。ま。ま。に。さ。う。い。ふ。よ。う。に。う。と。く。一。に。こ。た。を。け
れ。は。度。は。さ。や。に。ま。に。く。の。後。と。い。ふ。や。う。と。い。ふ

自。た。け。て。海。舟。の。清。く。の。衣。は。さ。く。れ。れ。あ。い。ぬ。人。と。い。ふ。あ。い。ぬ。人。の。い

らさぬ。まゐのすう裳さほへ。お梅もなき。柝乃うさぬ。そのすう
めれと。よめうけまは。どうさうくさる。やゑ。家

の表は。小少ね。お梅。まゐのすう。は。ちすうの裳を。入。柝の。うさぬ。あ
あ。あ。の。うさぬ。と。守。な。れ。り。い。う。信。を。と。つ。は。や。誠。考。ふ。と。入。こ。れ。装
束。の。い。ま。あ。う。だ。か。さ。た。さ。た。さ。な。小。少。ね。の。ま。ま。さ。て。え。申。さ。せ。今。え。な。う。の。ま
ら。尾。尾。と。に。も。着。き。入。ふ。と。う。な。ほ。ほ。ほ。い。た。ま。に。さ。や。や。な。う。と。い。う。と。う
え。の。へ。は。年。代。老。た。せ。着。き。う。た。と。う。え。た。ま。い。り。他。の。人。も。と。う。う。ま。に。え
ゆ。に

うへんと。十七人。まゐの。い。う。た。お。梅。お。り。た。ふ。心。と。ま。れ。い。ま。い。は。橋。
三位。と。う。い。く。人。と。い。へ。こ。あ。ま。式。敷。う。ち。は。え。こ。少。ね

後朱雀帝

徳

うへん。あ。ふ。え。た。と。甲。く。内。裏。の。女。房。を。う。と。う。く。人。は。伊。予。ち。ま。式。敷。
小。少。ね。を。

み。う。と。ま。ま。い。こ。ち。あ。う。此。中。に。二。と。こ。ろ。な。う。う。た。ま。あ。さ。日。の。光。り
あ。い。て。梅。を。申。さ。す。い。の。う。け。な。る。れ。ま。な。う。

あ。さ。日。の。朝。日。は。ま。く。の。ま。な。う。光。り。あ。ひ。て。は。幸。を。日。に。オ。ま。を。月。に。こ。と。へ。さ
り。て。す。せ。に。て。月。日。の。光。り。あ。ひ。た。ま。梅。に。と。い。へ。る。朝。日。と。い。は。は。ま。に
あ。さ。う。の。あ。さ。い。た。れ。な。う。あ。ふ。日。た。け。て。す。う。の。ほ。と。あ。れ。は。梅。の。朝。日
ら。ぬ。う。は。あ。う。たり。梅。を。申。さ。は。カ。ユ。イ。な。う。

うへは。い。を。ほ。こ。う。ち。ま。り。ま。は。ま。い。の。く。れ。な。わ。の。い。た。あ。う。ま。い。え
さ。柝。お。梅。の。い。た。う。へ。い。え。え。ひ。さ。め。れ。たり。も。梅。の。柝。の。う。へ。ち

とうりつとほはよふ。とうりつとほのとうりつとほに袖口にさしこめてられたるをいふは
られたるはよふとほのとうりつとほにさしこめてられたるをいふは
えをなほにさしこめてられたるをいふは
とうりつとほはよふとほのとうりつとほにさしこめてられたるをいふは
は。人のさしこめてられたるをいふは
めれこれとほのとうりつとほにさしこめてられたるをいふは

ことせ。親が平にさしこめてられたるをいふは。まため。親が平にさしこめてられたるをいふは。

こちまは。さしこめてられたるをいふは。まため。親が平にさしこめてられたるをいふは。
り。とうりつとほはよふとほのとうりつとほにさしこめてられたるをいふは。
す。たりつとほのとうりつとほにさしこめてられたるをいふは。

流に。さしこめてられたるをいふは。まため。親が平にさしこめてられたるをいふは。
流に。さしこめてられたるをいふは。まため。親が平にさしこめてられたるをいふは。

たりつとほのとうりつとほにさしこめてられたるをいふは。
まため。親が平にさしこめてられたるをいふは。
り。とうりつとほはよふとほのとうりつとほにさしこめてられたるをいふは。
めれこれとほのとうりつとほにさしこめてられたるをいふは。
あ。さしこめてられたるをいふは。まため。親が平にさしこめてられたるをいふは。

えきして上進給。度上人にえりていふと。女房よとの。織物なぬを。よろここと
に。したとを。式部の上りていへり。されは。きぬのたうほさうは。いふこと
なるといふ。又たふふ。よろこにやは。上進給。度上人に。よろこに。いふこと
とも。いふなり。さうは。あは。とけさ。あさる。んして。ええ。し。たうた。え。た。え。い。て。あ。ふ。
あ。う。の。え。ん。た。ら。あ。度。上。人。ふ。さ。い。い。て。あ。う。の。い。つ。て。あ。ん。に。れ。り。
あ。い。ひ。た。ら。い。文。に。え。え。さ。れ。と。あ。ふ。ね。り。もの。な。ぬ。を。さ。う。し。と。は。や。又。え。
ら。せ。給。え。け。き。な。あ。を。え。れ。は。あ。あ。え。う。い。ひ。た。ら。い。は。た。の。う。う。さ。
れ。た。ら。や。

とちひすわくせ給よこととそとそと。い^基たひなとほさう。ひさしに。あ
くほさは。あうへの女房は。い。丁。れ。に。い。た。ま。を。い。ひ。の。に。ほ。に。ね。い。し。祇

た。う。う。に。て。な。み。わ。た。ら。三。位。せ。う。と。い。て。内。侍。の。す。け。た。ら。と。あ。は。た。ま
わ。ま。り

とちひは。あ。十。の。銀。ひ。り。二。の。甲。に。さ。う。い。り。う。の。女。房。は。あ。た。を。た。う。と。い
し。く。内。裏。の。女。房。を。い。丁。は。あ。さ。う。と。あ。さ。う。と。次。を。う。と。い。帳。を。い。ひ。の。れ
い。は。た。ま。を。た。ら。た。ら。帝。の。い。を。か。う。
記録書なと小撒書御座なととえ。な。み。か。た
た。い。あ。う。こ。と。さ。う。さ。う。と。い。と。い。さ。

るは。晝。時。庭。の。う。た。に。な。う。三。位。は。三。位。な。る。女。房。ぬ。り
さ。の。人。は。わ。う。う。と。は。な。け。い。れ。い。と。東。乃。ひ。さ。し。の。南。の。さ。う。い
そ。い。ち。を。み。に。さ。け。た。ら。に。上。ら。う。は。お。た。り

これは。中。の。女。房。よ。め。り。長。押。の。い。と。に。お。た。り。と。い。ふ。と。ぞ。あ。ら。う。い。て。い
祇。たり

み丁此いんう此そふ。きくすくしゆに。大納言。君こそお。君あはへ
候。下にしたつ申。申して。君。うへは。ひくくしゆの。此。君に。た。その。候。なり
えたり。た。ま。乃。も。此。し。た。さ。悔。い。ひ。は。く。さ。ん。う。た。な。し

ひくくしゆ。禁秘抄。清涼に。平敷。疊二帖。經綯。南上中央。茵一枚。中。唐綾。端錦と。
裏打。柳。劍。在。御座。南端。朝。東。東。西。面。致。

そそたり

はの。こ。に。わ。む。き。に。ふ。し。や。こ。み。に。て。え。た。ち。め。な。な。う。ち。の。た。は。い。よ。
ま。ま。あ。ち。ま。中。ま。ち。ま。に。系。大。納。言。を。れ。ら。う。ふ。ま。は。え。え。傳。う。さ。う。に。
い。あ。ま。ひ。あり。屋。上。人。は。こ。の。た。い。乃。た。つ。こ。に。あ。たり。な。ら。う。に。さ。あ。う
ふ。地。下。は。さ。た。す。れ。ア。う。け。ま。さ。の。あ。ま。ん。こ。れ。そ。の。あ。ま。ん。申。し。て。し。と
と。ま。さ。な。と。ま。う。此。人。こ

は。右。内。大臣。い。道。長。公。死。光。公。に。季。公。あり。地。下。は。さ。た。ま。れ。り。と。は。地。下。の。人。の。
あ。へ。死。う。た。ふ。さ。た。す。て。さ。あ。ま。を。い。よ。あ。う。け。ま。さ。い。下。口。人。の。命。に。て。お。お。に。さ
あ。ま。い。り。花。多。解。結。小。大。鼓。は。あ。ま。に。堂。下。に。て。お。と。あり。湖。月。抄。の。後。に。
お。お。い。地。下。の。役。な。と。名。に。た。ま。は。な。り。中。ま。ち。ま。新。中。に。う。て。く。ま。へ。つ
う。へ。に。田。系。大。納。言。を。う。し。と。う。院。女。び。お。こ。は。経。孝。朝。信。に。宰
お。中。納。言。の。あ。え。と。傳。う。さ。う。調。此。こ。の。あ。ま。あ。れ。た。と。い。ふ。に。む。ま
ろ。田。こ。此。後。な。と。う。た。し

うへに。地。下。に。あ。へ。た。う。へ。な。う。さ。う。て。う。此。う。ま。に。て。ま。和。名。抄。に。能。入。調。曲
此。う。ち。小。僧。馬。樂。と。い。う。なり。あ。れ。た。と。席。田。こ。の。後。い。つ。れ。と。僧。馬。樂。の。う。た
い。も。此。あ。ま。乃。奇。あり。経。孝。朝。信。新。中。に。う。て。く。ま。へ。つ

こく^曲れ物は、とう^破れ^急をあせり^外の^座に、ま^らう^しなとをふ
く。あふま^らう^しうちたうて、とうめ^らい^の海^のふ^らい^の物^の一

こく^曲れ物とは、多^くの^曲を^備へ^るの^は、拾^遺抄^壹越^調の^うち^の鳥^とい^ふた^るこ^のか^らへ^り、う^ちの^物に^いて^は、これ^をめ^てを^こらぬ^と、とう^のの^まひ^をけ^しき^をう^まひ^にほ^ふな^とを^たり^破急^にへ^て一^曲の^うち^の序^破急^{なり}、それ^をい^ふ、あ^ふま^らう^しの^うち^たう^ては、伊^勢海^にあ^まし^とい^はれ^る、伊^勢海^は、これ^を僅^馬樂^の律^にか^かる^が、こ^の下^若菜^生に^この^物と^名を^新中^平に^まら^うか^らぬ^が、あ^まし^とい^はれ^る、新^中平^にま^らう^てく^まふ

右の^れも、わ^こん^のと^なう^しら^うな^と、う^ちの^や一^流、これ^をい^ふ、あ^まし^とい^はれ^る、

一^とい^はれ^る、い^ふ、一^にあ^や海^のれ^いと^ほ一^まら^うて^は、あ^まし^とい^はれ^る、
さ^へい^え信^甲一^の、い^ねら^う物^をえ^二、案^にい^まて^とを、又^え信^甲一^の
右^のれ^もは、ま^まや^一流^一、候^水り、あ^まし^とい^はれ^る、い^まに^あま^しと^いは^れる^が、
あ^まし^とい^はれ^る、さ^は、わ^らた^らは^や、さ^れ流^よま^は、い^はれ^る、い^まに^あま^しと^いは^れる^が、
さ^れ流^ひ一^とい^はれ^る、い^ふ、一^にあ^やさ^らな^との^うち^の一^から^て、あ^まし^とい^はれ^る、
一^とい^はれ^る、あ^まし^とい^はれ^る、い^えは、つ^つと^ほる^意なり、い^ねら^う物^は、道^長公^ら、
あ^まし^とい^はれ^る、い^まに^あま^しと^いは^れる^が、あ^まし^とい^はれ^る、
あ^まし^とい^はれ^る、い^まに^あま^しと^いは^れる^が、あ^まし^とい^はれ^る、





跋

紫式部日記比之其所著源語其文似稍遜焉者無他彼屬虛構此則據實亦足以相發併以見紫氏之全矣獨奈世少愛翫尋繹者彼多此寡以致舛訛重

累殆不可讀。清水子慨焉。鑽研有年。考覈良勤。又諮詢師友。舍己從之。作釋四卷。然後纂其之。面目無復隱蔽。猶披雲霧。務矣。其功亦偉矣哉。

癸巳季冬。離屋鈴木眼題。

浪華書林 岡田種玉堂藏板書目

大阪心齋橋通北久太良町北入 河内屋儀助

神代卷 全二冊

古文眞寶後集 新刻全二冊

同 頭書 全二冊

同 無点再版 全二冊

同 正訓 全三冊

虞書新志 唐本翻刻 全八冊

神代紀葦苒 全六冊

隸續 全四冊

校正古語拾遺 全一冊

五代史 補刻 全十五冊

古語拾遺言餘鈔 全五冊

潛夫論 同 全五冊

古語拾遺ト云ハ神代以後神社祭事等ノ古法ヲトリウシナヒシ事トモヲ記セシ書ナリ其本各ニウタカハシキモノヲ明辨訳釈シテサトシタルヲ言餘鈔ト云

新註大成四書字引 小本一冊

古語拾遺示蒙節解 全四冊

冠辭考 賀茂真淵大人著 全十冊

同續紹 上田秋成大人著 全七冊

掌中冠辭例 全一冊

枕詞補註 尾崎雅嘉大人著 全二冊

和歌虛詞考 加藤景範著 全二冊

紫式部日記謗註 壺井義和著 全二冊

日本紀の御局の考 松の屋大人著 全一冊

紫女七論 安藤為章先生著 全一冊

源氏新釋想考 賀茂真淵大人著 全一冊

古今類句 山本春正著 全三十四冊

國意考 賀茂真淵翁著 橋本稻彦再校 全一冊

松の屋文集 藤井大人著 全二冊

和楷正訛 春臺先生著 春楷先生著 全一冊

開口新話 全一冊

批點檀弓 全一冊

西京雜記 全二冊

作文初問 全一冊

斥非 春臺先生著 全二冊

文論詩論 同著 全二冊

茶山集 宋曾我著 全四冊

譯文要訣 全一冊

同附錄 全一冊

東郊先生文集 全五冊

棲碧山人百絶 讚岐牧麻漢先生著 全一冊

詩學新論 全三冊

明詩礎 小本一冊 同續 一冊

高士傳 唐本翻刻 全三冊

物類品隲 全六冊

醫斷 古益先生 全一冊

熊志 熊膽製方真偽明弁 全一冊

腫脹要訣 全一冊

春臺先生著 春楷先生著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

同著

おくまゝ一冊 松の屋藤井大入著 全一冊

月次経巻の消息文 藤井大入著 全一冊

佐喜艸 司著 全一冊

消息文例 同著 全二冊

伊勢物語新釋 同著 全六冊

消息文梯 蓮阿大人著 小本一冊

消息文松の中うゝ書文と校釋してを案文

消息文松の中うゝ書文と校釋してを案文

消息文松の中うゝ書文と校釋してを案文

消息文松の中うゝ書文と校釋してを案文

消息文松の中うゝ書文と校釋してを案文

宇田川玄随先生著

内科撰要 全十八冊

此書ハ和蘭傳來内治方ノ医書ニシテ和漢古今ノ医書ニモ載セザル妙論奇方ヲアマタツメ蘭本數書ヲ翻譯スルトコロナリ和蘭ノ医書アマタアリトイヘドモ多クハ外科ノ書ノニシテ内治ノ医書ヲ上梓スルコトコノ書ヲモツテ原始トスベシ實ニ古今未獲ノ珍書ナリコノ書ニ據テ奇方ヲモトメ療治ヲホドコトキハ如何ニ病疾タリトイヘドモ回生起死ノ術ヲホドコスベシ

仙臺大槻先生著

蘭畹摘芳 全三冊

此書ハ和蘭ノ本草ニシテ本邦ニ用フル所ノ草品草木生類スヘテ生真ニテハ得カタクモノヲ篤クセシクシ麝香榔樹ノ類種々ノマツラシキ品類ヲ写生ニ圖ララハシ和漢ノ諸説ヲ萃テ明弁シタル書ニシテ医家物産家ハモトヨリ珍奇好事家画家等ニ藏シテ大ニ益アリ本草類各アマタ有トイヘドモ此書ノゴトキハ真物ヲミルニヒトシキ古今未曾有ノ善本ナリ

萬葉集類葉抄 村上潔夫輯 小本全二冊

同 類聚抄 同撰 全二冊

同 二聖集 石津亮澄著 全一冊

古来風體鈔 全五冊

方丈記流水抄 鴨長明 全二冊

醫事惑問 古益先生著 全二冊

此書ハ病疾ニヨリテ医ヲモトメ服薬スルノ心得的當ノ医業ヲ知ルコトヲ論シ平カニテサトシタル人家重宝ノ書ナリ此各ヲ見テ後医ヲ求ムル時ハスミヤカニ治ヲ得ベシ

古今醫藥集覽 全三冊

宋朝御局考 全二冊

此書ハ宋ノ帝民ノ病苦ヲスタント欲シテ濟民御局ノ方書ヲ作ラレタルモノナリ

金匱妙藥選 全一冊

唐本百八十品ノ内ヨリ速功アル妙薬秘方ヲエラヒ素人ニテモ療治ヲ得ル薬方數多出ス

脚氣方論 村菴先生撰 全三冊

凡カツケノ諸症ナハタ多シ鹿エニ名ニ治ヲ下シ人命ヲアヤシコトヲ先生深クナクキ年来心ヲ用ヒ病原ヲ明ニカニ見ワノ治驗ヲスミヤカニ得ルコトヲ弁ジタル救世ノ書ナリ

無名抄 鴨長明 全二冊

細川幽齋聞書 全二冊

同 聞書全集 全三冊

俳諧心とら喰 全二冊

發句新五子稿 全二冊

古今俳諧明題集 涼帝子撰 全五冊

樗良七部集 全二冊

俳諧發句題葉集 小本 全五冊

黃花菴外六著四書の發句と十月の月夜の句と須
懸一難の部は種紙歌と述懐送るの再製句を
案三都及び佐高名家の句を採りて撰じし

斷易早合点 全二冊

易道撥亂 春臺先生著 全一冊

易道要略 同著 全一冊

貴人帖 廣澤先生書 全一冊

大橋俚語千字文 明浦先生 全二冊

當流字畫小謡 頭書 全一冊

無幻春霞帖 石搦 全一冊

菖蒲賀 尊圓親王御真筆 全一冊

易道撥亂辨 太宰東郭先生著 全一冊

俳諧十家類題集 全五冊

同 新十家發句集 全四冊

同 四季併題櫻苗 花屋菴寺開撰 全二冊

新增の山 長唄の山 全一冊

同 増補大成 全一冊

即席早速庖丁 両面一折

いさゝか魚氣精進とて平生を報ふてやうとて
心やとて風味よくやうとてあな女中がこども
出来りやうとてやうとてあな女中がこども
あな女中のたよりよくあな女中がこども
料理は吾所必用の也なり

和漢年代覽要 懷中本 全一冊

近江國大繪圖 一鋪

播磨國大繪圖 一鋪

攝津國大繪圖 一鋪

右國各神社佛閣名所回跡山川古城郡村
宿次御城下陣屋道法方角往還舟路
名物産物等概細ニルニタル大繪圖ナリ此
図ヲ熟覽シテ以テ旅行セシ心ガスレヨリ村
老ニタズシテ遠ナリ

大雅堂画法 全三冊

梅道人墨竹譜 全一冊

新撰漆物雛形 全七冊

一切の事とて名物入作職の又各ののり

即席料理

折本 全一冊

同料理早鍋

西面摺折本 全一冊

驥齒日記

全一冊

此書菅茶山河崎敬軒兩先生東海道紀行
在酬持集ニテ附スニ鵬齋茶山兩先生東都
本稿上ニ邂逅ノ持アリ其外奇事頗多シ

近人小詩

桐碧先生 全二冊

菅茶山寬齋大窪詩佛池五山柏如亭篠
霞亭ノ諸先生ヲ始其外名賢持アリテ求テ
四方ノ英傑ヲ知リタニスシ

風牀小詩

備中風牀上人著作 全一冊

經典餘師易經之部

漢百羊先生著 全七冊

先生諸解數部アリ大ニ世ニ行レテ人ノ貴重スル
所ナリ今刻ストコソノ易經ハ只意義ヲ發明ス
ル耳ナラト筆ヲ作ス人モ此ニ就テ字バ大ニ判
断ノ助ケトナルカナドキ第一ノ秘冊ナリ

繪本武勇画鑑

全三冊

嵯峨樵歌

北條霞亭著 全一冊

霞亭二稿

歸省詩囊 合刻 同著 全一冊

黃葉夕陽村舍詩

菅茶山先生著 二編 全四冊

論語筆解

唐韓愈著 全一冊

尊圓庭訓往来

全一冊

此書ハ字ハ板板シクシトモ又作偽者多ク
予ハ板板ノ彫カキテ字ヲ考ヘテ正シク
之ヲ校正シ世ニ傳フベカラズ

淺瀬の土

松屋大人作 全一冊

烏石成肅公碑

楷書大字石搦 一冊

天保五年

甲午

江戸柴神明町

十一月發兌

江戸日本橋通壹丁目

岡田屋嘉七

須原屋茂兵衛

京都寺町通松原下ル

勝村治右衛門

尾州名古屋本町十丁目

松屋善兵衛

大阪心齋橋通安土町

河内屋儀助

同 博勞町

同 茂兵衛

同 備後町

同 德兵衛

書林

